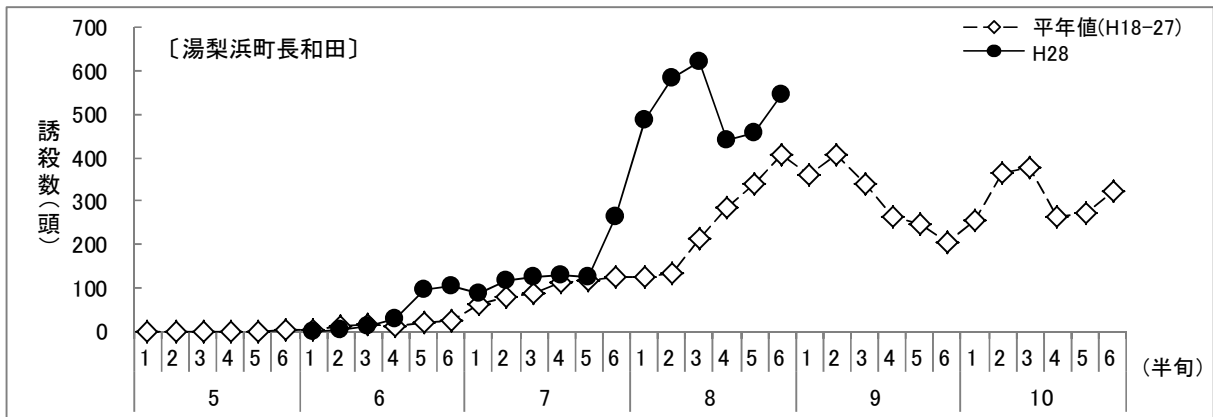
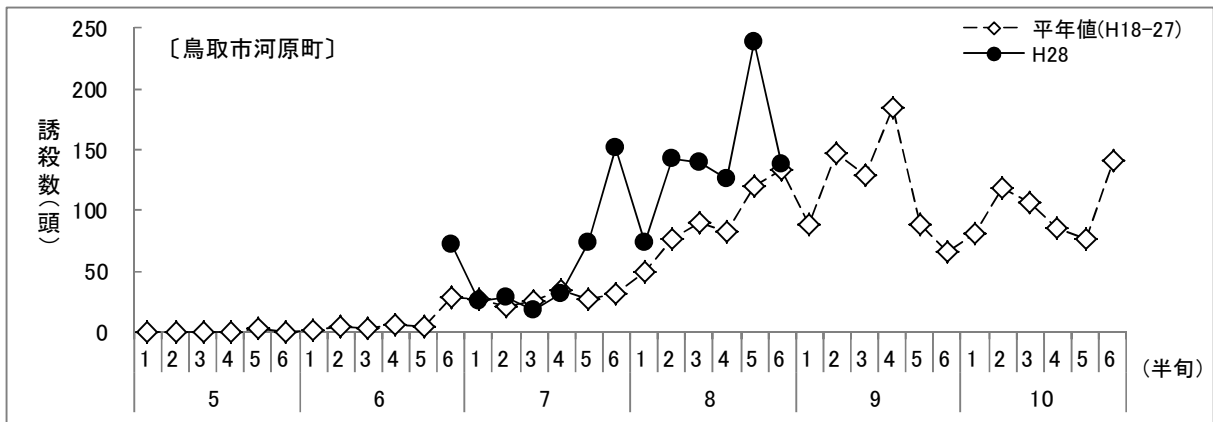
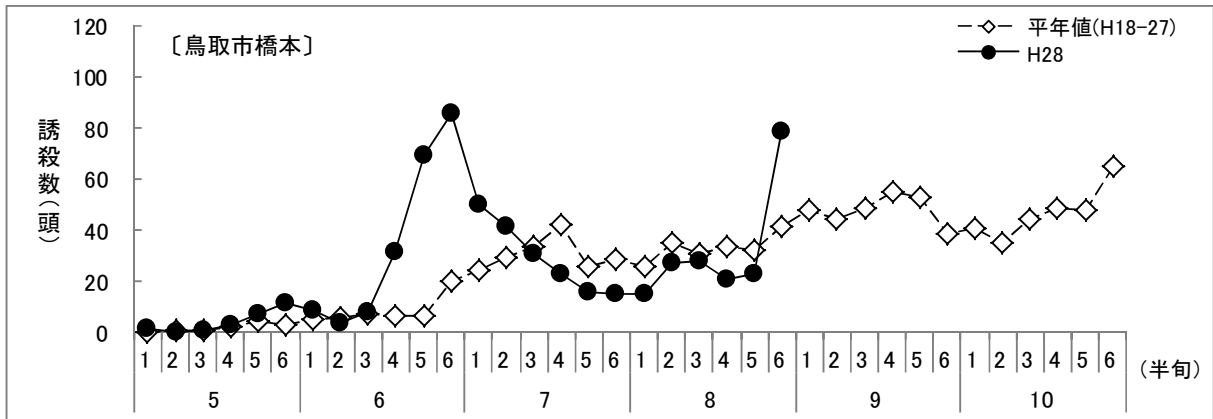


平成28年度病害虫発生予察指導情報
 対象病害虫：ハスモンヨトウ（ダイズ、野菜）

平成28年9月5日
 鳥取県病害虫防除所

1 発生状況

(1) 8月第6半旬現在、フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数は、平年よりやや多い。フェロモントラップの誘殺ピークは8月下旬～9月上旬ごろと予想される。



- (2) 9月第1半旬現在、巡回調査定点のダイズほ場における発生は平年よりやや多い（発生ほ場率：83.3%、平均白変カ所数：1.7カ所/a）。ほ場での発生の主体は若齢幼虫～中齢幼虫であり、今後、白変葉がさらに増加すると見込まれる。
- (3) 8月下旬現在、キャベツ、ブロッコリーほ場では被害株率が24%の多発ほ場もみられている。今後、さらに被害が増加する可能性がある。

2 防除上注意すべき事項

(1) ダイズ

- ア 若齢幼虫の加害によって発生する白変葉の早期発見に努める。これまでにチョウ目害虫の食害を受けているほ場では、特に注意が必要である。
- イ 防除の目安は、1 a当たりの白変カ所数5カ所以上とする。
- ウ 若齢幼虫に対する登録農薬の効果は高いが、齢期が進むと防除効果が低下するため、散布適期を失しないようにする。なお、中齢～老齢幼虫が混在する場合は、フェニックス顆粒水和剤、プレバソンフロアブル5等を散布する。

(2) 野菜

- ア 薬剤の感受性が高い若齢幼虫（体長1 cm以下）のうちに防除を行う。食害痕がみられはじめる頃が防除適期である。9月、10月の発生に注意する。
- イ 食害痕は不整形の白斑となり、さらにかすり状に透けて見える。はじめ卵塊から孵化した幼虫は集団で産卵場所やその周辺にとどまり、葉の表皮を残して葉肉部を食害する。ほ場内を観察し、食害痕が目立つ株に注意する。
- ウ 食害痕および若齢幼虫の発生が見られた場合には、病害虫防除指針等を参照し薬剤防除を行う。